

幼児の自由表現の指導に関する考察

— 動きのリズムの立場より —

荒 木 恵美子

はじめに

幼児は彼等の遊びの中で、また日常生活の中で自由奔放に自分の考えているものを表出し、興味のあるものを次々と見つけては吸収し、外化を試みるという新陳代謝の激しさを望んでいる。坂元は幼児の特性として¹⁾「幼児の場合はほとんど例外なしにその日常生活の大きな部分が表現的な活動で占められ、それは子どもの現実的な生活そのものであり、それ自身の中に将来さまざまな方面に分化されるであろうところの価値への芽ばえをそっくり含みこんでいるのである」と述べている。このことは幼児の表現活動の重要な位置づけをしたものであり、表現的な活動の役割の大きさを物語るものであるといえる。文部省が示しているところの²⁾「のびのびとした表現活動を通して、創造性を豊かにするようにすること」という基本方針も、幼児期における表現生活と表現活動が人間形成に及ぼす範囲のきわめて広く、かつ深いことを踏まえてのことであり、幼児期こそその柔らかな心性に事物への感受性を培い、これを自由に率直に表現しうる心の体制を形成する唯一の機会であるということでもあろう。

さらにいいかえると、我々が動きのリズムにおいて表現活動を意図して指導しようとするとき、ただ単に想像力を伸ばし、情操を豊かにし、美的な方向へ向かうものであるとするだけでなく、もっと根源的でしかも多面的な活動として捉えることが重要である。すなわち幼児の表現活動は心身全般にわたる総合的かつ真剣な活動であり、それは身体的な機能や運動神経をいっそう発達させるものであるとともに、知的なはたらきとして、認知や思考の力を伸ばしたり、またさらに対人的な社会性さえも育てるものである。動きのリズムで表現指導をしようとする際にもこれらのことを意図して指導することが大切なことは必定であろう。我々は身体的にも精神的にも未分化な幼児期に一つの型の完成を望むのではなく、幼児自身が自らとらえた感動を心ゆくまで自由に表出させ、楽しい満足感を与えることこそ望ましい成長発達を促すものと考えからである。

このように幼児が望ましい発達をするために欠かせない表現活動の一つである「音楽リズム」について、幼稚園の先生方は³⁾「保育内容の中で指導上一番困難を感じる」と答えられる人が非常に多い。また「音楽リズムの中でも動きのリズム、特に自由表現指導に困難を感じている人が多い。その理由について聞くと「即興ピアノ伴奏ができないから」また、「表現指導の際の指導助言がうまくできないから」と答えられる。表現活動をより楽しく、安易で効果的な指導ができるような解決が早急に望まれる。今回は現場の先生方にご協力をいただき、指導の実態をアンケートにより調査したので報告し、動きのリズムの指導における問題点をまとめてみたい。

研究方法

岡山市内幼稚園教諭 100 名による質問紙法(回収率 70%)

期間 昭和 54 年 7 月

(1) 現場における動きのリズム — 自由表現指導の分析

1) 調査対象

表1 対象者

年齢	20才 ～25	26～ 30	31～ 35	36～ 40	41～ 45	計
人数	40人	25	2	1	2	70
%	57.1	35.7	2.9	1.4	2.9	100
経験 年数	5年	10	15	20	25	

調査対象者の年齢ならびに経験年数は表1に示すとおりである。経験年数5年未満の若手教諭がもっとも多く、次いで10年未満であり両者のみで93%を占めている。このことは幼稚園教育における特徴ともいえる現象でありベテラン教諭の僅少という問題、ならびに

大学時代の教育内容の短期充実という二つの問題を提示していると考えられる。

2) 動きのリズムの指導にあたっての心情

幼稚園教育要領に示されている動きのリズムのねらいを要約すると次の三点にしばられる。すなわち、

① のびのびとした気持で思いのままに身体表現ができるような基礎的な動きの経験をさせる。

② 幼児みずからがしだいにリズムカルな雰囲気にとけこみ、進んで表現の喜びを味わうような模倣表現、自由表現の経験をさせる。

③ 友だちといっしょにリズムカルな集団遊びを楽しむようにする。

上記の事項を中心に指導を展開していくわけであるが、それらの指導にあたる際の現場の先生方の心情を分析したものを表2に示す。

表で明らかにように、動きのリズムの指導は「得意で

あり面白い」と答える人は殆んどない。⑦の基礎的な動きの指導と②の集団遊びの指導については「まあ何とか無難にできると答える人が80%～89%とあるのに比べて、④の模倣表現、自由表現の指導は41%と低い。逆に「指導が困難であり苦手である」と思う人は④の模倣・自由表現の指導と答える人が57%ともっとも高く、表現活動をさせることの困難さを物語っている。このことは昭和46年7月に調査した結果(表3)と同様の傾向を示しており、苦手意識は10年来持続しているということの意味の深さを考えるとともに、原因を追求しその解決を導く効果的な指導法を早急に探究することが望まれる。

3) 動きのリズムの指導の状況

動きのリズムの指導はどのくらい行なわれているのであろうか、指導状況を表4に示す。

表2 動きのリズム指導上の気持

指導内容 \ 指導上の気持	得意であり面白い	まあ何とかこなしている	困難であり苦手	計
⑦ 基礎的な動きの指導	3名 (4%)	56名 (80%)	11名 (16%)	70名
④ 模倣表現・自由表現の指導	1 (1)	29 (41)	40 (57)	70
② リズムカルな集団遊びの指導	1 (1)	62 (89)	7 (10)	70
計	5 (2)	147 (70)	58 (28)	

表3 動きのリズムの指導で苦勞する項目(保育学研究1972)

	指導にもっとも苦勞する	%
⑦ 基礎的な動きの指導	4名	7.3
④ 模倣表現・自由表現の指導	36	65.5
② リズムカルな集団遊びの指導	2	3.6
㊟ 観賞指導	13	23.6
計	55	100

(対象 岡山市内幼稚園教諭 31名)
岡山市外 " 24名)

表4 動きのリズムの指導状況

(数字は人数)

指導状況 指導内容	ほとんど 毎日指導	週1回位 指導	月1回位 指導	そ の 他				計
				週2-3回	2週に 1回	月に 2-3回	そ の 他	
㊦基礎的な動き	12	40	2	7	1	1	6	69
㊧模倣表現・自由表現	0	22	26	0	2	6	12	68
㊨リズムカルな集団遊び	5	34	14	0	0	2	13	68
計	17	96	42	7	3	9	31	

表で明らかのように㊦基礎的な動き、㊨集団遊びについては「週1回位は指導している」が多いのに比べて㊧の模倣表現、自由表現については「月1回位しか指導していない」と答える人がもっとも多い。前述の指導上の苦手意識と関連して敬遠の傾向がみられるのではなからうか。殊に幼児の日常が表現的な活動で占められているという幼児の特性を考慮しても指導時間数の少なさに多少疑問を抱かざるを得ない。大久保⁴⁾は指導状況について一年間の指導時間数を保育内容全般にわたって分析報告しているが、それによると6領域の中で「音楽リズム」は「自然」の領域につづいて指導時間数が極端に少ない。このような状態の中でさらに表現指導が敬遠されることは、動きのリズムのねらいをどれ程達成するであろうかと危惧されるのである。

4) 模倣表現、自由表現指導に選択された題材

表現活動をより効果的に有意義に指導していくために教師の選ぶ題材の意味するものは大きい。「動きをじゅうぶん楽しませること⁵⁾」から始まり、「いろいろな動きに気づかせたり」「そのものらしく表わすように工夫させたり」「創造的な表現をさせる」などねらいによって選ぶ題材も多少異なるであろうが、大切なことは次のように要約されるであろう。

題材選択の立場

ア. 幼児が日常生活の中で見たり、きいたり感動的な経験をしたものであること。

イ. 模倣したり、身体で表現することができやすく、かつ、くり返すことが楽しいものであること。

ウ. 表現内容に多様な変化と発展的な取り扱いのできるもの。

エ. 1人でもグループでも表現できるもの。

オ. 表現のために必要な基本的な動きの特徴を心得てバランスのとれた身体発達を促すものであること。

さて今回の調査対象者である場場教師が一学期に選択指導した題材例は表5に示したとおりである。

これらの題材は5月、6月、7月に指導されたものであり、年間計画にもとずき、月間目標にそって選択された題材である。上記アで述べた日常生活の中で見たり、きいたり（鳴き声、音）、触れたりして感動的な経験をしたであろうと考えられる小動物が多く選ばれているのも、「つゆのころ」と題す6月の主題と関連して自然の状態とうなづける。しかしその他の題材では「しゃぼん玉」がわずかに多くみられるのみでそれ以外の題材は殆んど出てこない。4歳・5歳との年齢差も明らかでない。また46年の調査との比較においても殆んど同様な傾向がみられ題材選択に教師独自のくふうがみられないのではなからうか。

5) 模倣表現・自由表現指導のねらいのもち方について

ねらいのもち方については殆んどの教師が題材の違い、年齢の違いにかかわらず、教育要領の指導目標に準じた形で挙げられている。すなわち、「○○になって（なりきって）自由に表現することを楽しむ」、「○○の特徴をとらえて幼児なりに工夫して表現する」、「成長する様子をお話にそって自由に想像し表現する」、「友達といっしょに考えたことや感じていることを話し合わせ、かわりをもちながらリズムカルな表現を楽しむようにさせる」などである。4歳児では「楽しませる」「自由に表現させる」など遊びとして扱えたものが多く、5歳児では「リズムカルな動き」「工夫して表現」「特徴をとらえて」「友だちといっしょに」などが多い。ねらいに関しては易から難へと配列されており、発達段階に即した指導の系統性が伺える。

6) 模倣表現・自由表現の指導に取り扱われた内容

表6は教師が幼児のためにとり上げた指導内容を題材別に示したものである。ここでは題材選択の際に多くの人が選んだ小動物の中で「かえる」「かたつむり」

表 6 表現内容の種類と頻数（1部抜粋）

題材	か え る	4歳5歳	か た つ む り	4	5	か	に	4	5	ざ り が に	4	5	しゃぼん玉	4	5
1	泳ぐ	3	7	4	4	4	4	2	4	1	2	5	ふわふわとんでいく	2	3
2	とぶ（しゃがんで）	2	7	4	4	4	4	3	2	1	2	5	だんだんふくらむ	3	2
3	遠くにとぶ	1	4	2	3	2	3	1	3	0	1	1	こわれる	2	3
4	リズムに合わせて	0	3	1	3	1	3	1	3	0	1	1	高く低くとぶ	1	1
5	リズムに合わせて	2	3	1	3	1	3	2	3	1	0	3	くるくるまわってとぶ	1	1
6	リズムに合わせて	1	2	1	3	1	3	2	0	1	0	2	2つ3つとつくとぶ	1	1
7	リズムに合わせて	0	3	2	1	1	3	0	2	1	0	1	大きなしゃぼん玉	1	0
8	高くとぶ	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	2	ゆれる	1	0
9	葉から葉へとぶ	1	3	1	1	1	1	0	1	0	0	2	小さなしゃぼん玉	1	0
10	跳び跳び競争	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	2	泳ぐ	0	1
11	跳び跳び競争	0	3	0	1	1	1	0	2	1	0	2	泳ぐ	0	1
12	小さくとぶ	0	1	1	1	1	1	0	2	1	0	2	泳ぐ	0	1
13	速く速くまでとぶ	0	1	1	1	1	1	0	2	1	0	2	泳ぐ	0	1
14	鳴く様子	0	7	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
15	どりがににおそわれる	1	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
16	えさを食べる	0	2	2	0	2	0	0	2	1	0	1	泳ぐ	0	1
17	おたまじゃくしへかえる	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	泳ぐ	0	1
18	ねる	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	泳ぐ	0	1
19	手をついてとぶ	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
20	足だけでとぶ	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
21	水かけっこ	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
22	タマゴへかえる	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
23	親子がえる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
24	お父さんがえる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
25	お母さんがえる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
26	赤ちゃんがえる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
27	散歩している	0	2	1	1	1	1	1	0	1	0	1	泳ぐ	0	1
28	驚く	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
29	いわがげにかくれる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
30	えさを採りにいく	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
31	遠足に行く	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
32	とんでいる虫を食べる	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
33	協力してやっつける	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
34	マット、跳び箱で	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
35	鉄棒で	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
36	かにと遊ぶ	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
37	喜こんであそぶ	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
38	友だちとあそぶ	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
39	鳴いたり跳んだり	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1
40	歌に合わせて	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	泳ぐ	0	1

「かめ」「かに」「ざりがに」ならびに比較的多くの 挙した。
人が選んでいた「しゃぼん玉」についてその内容を列

表5 指導した題材例

分類	題材	4才	5才	頻度	指導月	指導頻度
自然現象	小動物	5	6	11	6・7	26
	かえる	12	13	25	6	11
	かたつむり	9	8	17	6	4
	ざりがに	7	9	16	6・7	1
	かめ	6	6	12	6・7	2
	かに	3	5	8	5・6・7	
	おたまじゃくし	3	2	5	6	4
	だんごむし		1	1	6	
	めだか		1	1	6・7	
	つばめ	3	3	6	6	12
	小鳥	2	2	4	5	1
	みつばち		1	1	5	
	動物	2		2	5	3
	うさぎ	1		1	6	
	ちょうちょ					10
	春の虫					1
	ちょうちょと花					4
生活	植物		2	2	5・6	13
	チューリップ		1	1	4	
	海の様子	1		1	7	
	星	1	1	2	7	6
	雨					2
	宇宙					1
	波					1
	春のようす					1
	夕立					1
	たなばた様		1	1	7	
芸術	こいのぼり					2
	時計					2
	遠足					1
	乗物					1
	ボートこぎ	1		1	7	
	飛行船	1		1	7	
	ヨット	1		1	7	
	水あそび		1	1	7	1
	しゃぼん玉	3	4	7	7	8
	いちごつみ					1
象	水鉄砲					1
	花火					1
	経験した遊び					1
	夏の遊び					1
	3匹のこぶた		1	1	5	1
芸術語	金太郎					2

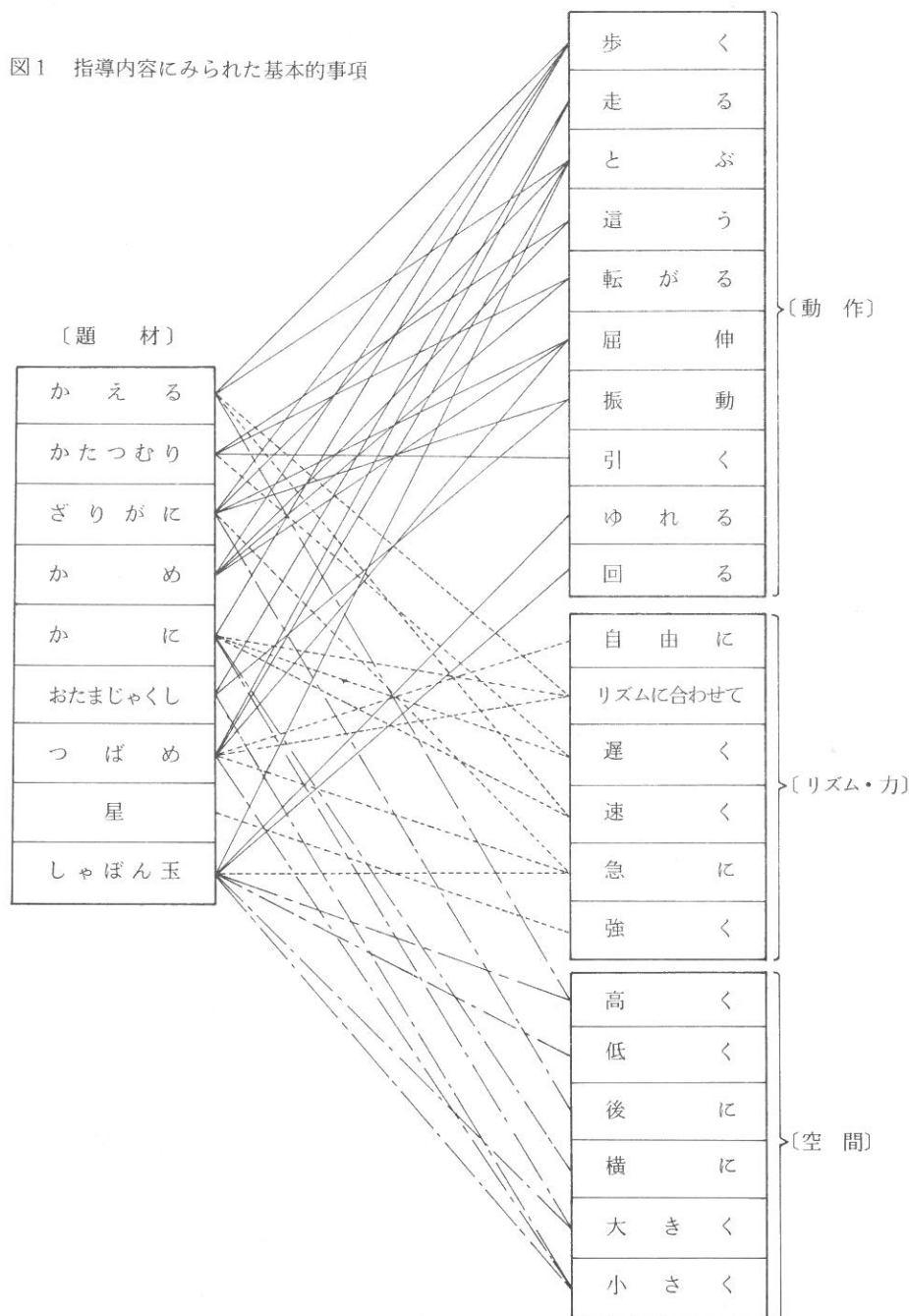
(S54年7月調査)

(S46年7月調査)

小動物の中でも「かえる」の表現内容についてみると種類、頻数ともにもっとも多く、変化をもたせやすいものようである。その他の「かたつむり」「かめ」「かに」「ざりがに」については内容にいずれも類似の傾向がみられる。例えば、ゆっくり這う、つの（頭、手足）を出したり・引こめたりする、えさを食べる、こわいものが来る、親子になるなど、低い姿勢でゆっ

くり動くものが多い。従ってこれらの小動物については題材は異なっても内容が同じ動作のくり返しになり易く幅広い豊かな経験となりにくいではなかろうか。

図1は上記の表現内容の中から、教師が明らかに意図して表わしていた基本的なもの即ち動作、リズム、空間について要素別に分析したものである。



図にあらわしたそれぞれの要素は幼児が明らかに経験したことである。そしてここに挙げた題材について線で結ばれたものがそれぞれの動きの特徴を表わし、かつ、これらの表現活動を通して身体的な機能や運動神経をいっそう発達させようとしたものであると考えられる。

即ち「かたつむり」については「這う」「転がる」「引く」という動作、ならびに「遅く」というリズムがとり上げられ、「かに」については「歩く」という動作、ならびに「リズムに合わせて」「遅く」「速く」というリズム、さらに「横に」「大きく」などの空間要素について経験をさせたものである。

しかし、ここに表われない他の要素のあることも忘れてはならない。即ち動きでは平均、ねじる、波動、押すなど、また、リズムでは拍子、次第に速く、次第に遅く、弱く、アクセントなど、さらに空間ではその場で動くなどの要素である。これらの要素も含めた基本的内容は幼児の発達に即し、レディネスに合ったものを与えていくことが大切である。

従って表現指導をする時これらの要素のバランスを考えたり、与える時期、方法などについて充分の配慮がなされなければならない。

例えば「小動物」という題材で類似な動作を含む数

種類の小動物を組み合わせて表現させている人が以外と多い。即ち「かえる」…しゃがんで跳ぶ、「かに」…しゃがんで歩く、「かたつむり」…這う、「ざりがに」…しゃがんで歩くなどである。

筆者の律動運動能力テスト結果の報告⁶⁾によれば「しゃがんで歩く」や「しゃがんで跳ぶ」は、歩く、跳ぶ動作の中では比較的リズムに合わせにくい。なお、しゃがんだ動作が連続してくり返されることは持続もしにくい。

以上のことから指導にあたっては内容に動的なものと静的なものを組み合わせたか、その場の運動と移動のものを加えるなど、リズムカルな組み合わせ、ならびに能力上の問題などを含んだ幅広い経験ができるようにすることが大切であろう。そのことによって幼児の表現活動も一段と興味深くなるものと思う。

7) 評 価

教師は指導の後では常に反省し、自己評価して次の指導のあり方を考慮し進めている。幼児に表現活動をさせる時、その評価はねらいが充分達成されたかどうかを判断の基準にするが、さらに具体的に幼児の興味、技術の観点から教師が自己評価したものを表7に列挙する。

表7 指導後の評価の観点

	良 い 評 価		悪 い 評 価	
	良 い 評 価	頻数	悪 い 評 価	頻数
興 味 に 関 する 評 価	1.大変喜こんでした	10	1.興味が他へ移行した	1
	2.本気でした	1	2.あきる(男児)	1
	3.よろこんでした	20		
	4.楽しんでした	20		
	5.ストーリーを楽しんだ	1		
	6.まあ楽しくした	1		
	7.半分位楽しくした	2		
技 術 に 関 する 評 価	1.全員できた	1	1.リズムカルにできない(男児)	4
	2.殆んどできた	10	2.ちばけたり・はずかしがる子がいる	3
	3.自分なりに工夫してできた	3	3.リズムがとりにくいものもある	2
	4.リズムによく合った	1	4.リズムに合わない(男児)	1
	5.動きをよくとらえた	1	5.自分の考えた動き少ない	1
	6.面白い表現あり	1	6.動きが単純	1
	7.自由にのびのびとした	1	7.考えて表現できない	1
	8.動きに変化あり	1	8.表現が均一化	1
	9.並んで横歩きできた	1	9.工夫がみられない	1
	10.いろいろなリズムでとぶことができる	1	10.横歩きできないものもある	1
	11.特徴もつかめた	1	11.男2名スキップができない	1
			12.荒っぽい表現	1
			13.動作が小さい	1
			14.ゆっくりしたものより動きのあるものが良い	1
			15.鬼ごっこで活動がみだれる	1
			16.男児3名程理解できない	1
			17.男児はだめ	1
			18.すわってしない子あり(2~3人)	2

興味の点では殆んど幼児が喜んで表現活動をしているといえる。

技術の点では評価のしかたにばらつきがあり断定的には云えない。大まかに評価内容をまとめると次のようである。

良い評価をしたもの

⑦殆んど幼児ができた。④自分なりに工夫して表現できた。⑩リズムカルにできた。④女兒がよくできる。④特徴をつかんで表現できた。など

悪い評価をしたもの

⑦リズムカルにできない(男児)。④ちばけたりはずかしがったりする。⑩男児ができない。④自分で考えた表現ができない。④しない子がいるなどである。

今回解答を得た先生方の指導においては、かなりの幼児は自由表現を楽しんででき、かつ特徴もとらえ、工夫した表現もできるが女兒にくらべて男児はリズムカルに表現できにくいし、ふざけたりはずかしがったり、しなかったり特に男児の指導に困難な点がみられるようである。これらの結果より男女差をも考慮した指導法、ならびに幼児の興味を引きつけるような感動的で豊かな経験のさせ方などについての問題が提示されたといえる。

さらに前述したことであるが表現指導にあてた設定保育時間数をみると、1回のみ指導で終わっている人が34人ともっとも多い。2回、3回と同一題材あるいは関連的な題材で発展的に取り扱った人は極く少なく、指導後の評価において発見された問題点もそのまま放置されているのではないかと危惧される。少なくとも教授・学習システムにもとづく教育目標・内容・教材研究・教授・学習・評価という要因の関係の中でフィードバック、ならびにフィードフォワードを考慮した発展的指導へと関連した思考がなされる必要があるのではなかろうか。

(2) 動きのリズムにおける表現指導のあり方に関する考察

以上現場の教師の指導の実態より教育目標、内容、方法、評価とそれぞれ教授・学習過程にもとづいて要因別に分析を試みたが、問題点を要約すると次のようである。即ち現場の教師は動きのリズムにおける表現指導を苦手とするものが多く、指導回数はおのずと少なくなり勝ちである。題材の選択については一応幼児の興味をひく身近な「小動物」などを題材として表現活動をさせてはいるが、内容にささかたよりの傾向がみられる。このことは表現指導の大切な要素の一

つである豊かな情操を培い想像性を高め、また望ましい身体発達にもつながる活動としては今一つもの足りなさを覚えるといえるのではなかろうか。さらに評価の結果をフィードバックして新しい教授活動へ向う姿勢の必要性も望まれることのひとつといえよう。少なくとも幼児が表現活動をした後の表情に満足感あふれるものがにじみ出、そのことが次の活動への意欲となり、将来多面的に行なわれるであろう表現活動への確実な萌芽となるような指導の手だてを考案して行く努力をすることの大切さを痛感するのである。

今回は現場の教師のアンケートの結果を報告することにとどまり、表現指導を苦手とする理由である「指導助言のあり方」ならびに「伴奏音楽の問題」さらには「幼児自身の活動状況」そして「教師と幼児のかかわり合いの状況など数多くの問題分析を残している。従って今回の分析をただの分析としてとどめることなく、分析から総合へ、つまり保育の構成へと転ずる手だてを今するには少し時期尚早といわざるを得ない。

しかし若干の私見を述べさせてもらうならば、総合保育を特徴とする幼稚園教育の中にあって表現指導が生きづくためには系統的な指導法を早急に確立するとともにピアジェの発達上の特徴を考慮しても象徴的遊びを充分させることこそ大切と考える。即ち、この時期に新しい対象に対して、象徴的あるいは模倣的シマを投射する遊び、ならびに一つの対象を他の対象に同化させる遊び、さらにごっこ遊びを通して象徴がいろいろ組み合わせられて遊ぶ遊びなどを積極的にさせることであろう。しかもこれらの遊びの中に模倣表現、自由表現が自然の形でかつ必然性をもつ遊びとなるならば、その遊びをくり返すことによって表現性も次第に高まるであろう。

また、そのことによって象徴的遊びも次第に正確な模倣表現、自由表現に発展すると同時に遊びの構成に秩序ができ、社会的象徴も出現、役割の分化と調整も行なわれるようになる。このように遊びと動きのリズムは相互に関連し合って発展することが望まれる。それでこそ幼児教育が目標とするところの、人間性の育成をめざした総合的な立場に立つ動きのリズムの指導となっていくのではないかと考える。

今後は今回残した問題を問題として研究を深めることによって、幼児の動きのリズムにおける表現指導の位置づけ、ならびに効率的な指導法の探究に接近して行きたい。

なお、アンケートに快よくご協力いただいた高島幼稚園前園長森安万亀子先生を始め、岡山市内の諸先生

方に心より深く御礼申し上げたい。

引 用 文 献

- ① 坂元彦太郎 幼児教育学全集6 情操と表現 小学館 P 11
- ② 幼稚園教育要領 フレーベル館 39. 3. 23
- ③ 保育学研究 岡山県立短期大学保育科 1972, 3
- ④ 大久保和子 日本保育学会 1974
- ⑤ 坂元彦太郎 幼稚園教育要領解説 P 108 1967
- ⑥ 荒木恵美子 日本保育学会 1974

参 考 文 献

- ① 林田孝次編 幼児の表現生活 朝倉書店 1971
- ② J ピアジェ著 大伴茂訳 遊びの心理学 黎明書房 1967
- ③ 金子孫市編 教育工学と授業システム化入門 明治図書 1973
- ④ R. L. マレイ著 松本千代栄, 佐藤康子訳 ダンス学習法 大修館書店 1974
- ⑤ 水谷光編 幼稚園・保育園における音楽リズムの指導 建帛社 1976
- ⑥ 岡山県立短期大学編 研究紀要 第16号 1972

昭和 55 年 3 月 31 日受理